

十話

むがし、あるところに猿と雉子として田作った。二人で田作ったの。

それで「サル、サル、今日は田打ちに―むがしは三本鍬で打ったもんだし―田打ちのために、田打ちに行くべし」て雉子が言ったとこ

「だめ、だめ、今日は脚氣がおぎで行がれません」

「したら、俺行ってくらア」て雉子ばりしてでろ。と田打ちに行ったの。

こんだ「今日は、サル、サル田搔ぐに行くべし」

「今日も、脚気おぎで行がれません」

猿がなす。

して、こんだはア、植えるようになったはア。して、こんだ田植えだ。

「さあ、植えるべし」

したば、「今日も脚気おぎで行がれね」

さあ、今日だ。稲刈りだ。

「稲刈りに行くべし」

したば「今日も脚気おぎで行かれません」したら、今日は稲分げだ。「さあ、行ぐど」して「俺分ける」て。

「キジ一把、サル二把、キージ一把、サル二把」て、猿がなす。

そして、こんだは猿、たくさん食べで、「キジ、キジ、俺早く食べで、よど（夜盗）に行くど」

雉子、おっかねしてブルブルふってらわけだよ。どしてなんほも食ねし、猿はたくさん食ってしまひし、してこんだ、おっかねして、おっかねしてだどごさ、こんだ栗が来たわけだ。

「キジ、キジ、何お前しんべ（心配）だどある」

「サルにかて、米みな食える」ど。

「何もしんべするな、俺、囲炉裏の中にいるんて」して、こんだ蜂が来たんだよ。

「なして、しんべなことある」

「サルがよどに来るんて、おっかねして」

蟹が来たんだよ。してこんだ

「なにして、しんべたこどある」て。

「まんち、こうゆうもんだ」

「俺、マズグチ（水口か）にゐるんてしんべすな」

こんだ、ツム（鍾）来たわけだ。

「おれも窓の隅さゐるんて、何もしんべするな」

白が来たわけだ。白は、こんだ

「おれ、梁にゐるんて、しんべすな」

ぶじょほ（無調法）だども、べどのくそ来たわけだ。べどのくそがな。

「おれ、まんち庭にゐるんて、何も心配すな」

こんだ、ちゃんと皆、落ち着いていだべ。した、こんだ雉子しゃんとしてだ。

「キジ、キジよどに来たどっ」

したけ、こんだ雉子おかね。

「ああ、さび、さび」って、囲炉裏の火、ボリボリって掘ったば栗がドオーンってはじけた。猿のカモさどんとはじけたべ。

こんだ、アツチ、アツチで水さガボンて入ったば、まだ、ホレ、蟹にがて、ギジツてささいだわけだ。こだア、こんだ、こんだま

だいでだが、あっちだが、どなんだが窓さ行たば、その鍾にがてグエンとまなく（眼）決られて蜂にがて、ギジャリ刺さいだば、

こんだ庭さ行って、べどのくそデラリしたば、白がボダリ落ちて猿がはア死んでしまったど。

して、みんなが集ばって、猿を煮で喰ってそれで、どっどはら
ったど。